

コメ・バター不足の根本原因 ～データが示す「農業総崩れ」～



鈴木宣弘

東京大学大学院 特任教授

すずき・のぶひろ／1958年三重県生まれ。東京大学農学部卒業後、農林水産省入省。農業総合研究所研究交流科長、九州大学教授などを経て、2006年から東京大学大学院教授。2024年4月から現職。食料安全保障推進財団理事長。専門は農業経済学、国際貿易論。『農業消滅 農政の失敗がまねく国家存亡の危機』（平凡社新書）、『協同組合と農業経済 共生システムの経済理論』（東京大学出版会）ほか著書多数。

国民の食料安全保障の根幹となるコメ。その生産現場を担う稲作経営はとりわけ厳しい状況に置かれている。酪農家、肥育農家の経営も同様で、離農の動きが加速している。それぞれの経営収支のデータを基に、今後どのように農家を支えていくかが重要になってくる。営農を続けられる道筋を示していくことが、なによりも必要である。

■ 過剰だからと買ったとき、こんどは足りぬ？

過剰、過剰と言われたコメが、突如足りないと言い始めた。昨年の猛暑による減産・品質低下と訪日客の急増による需給ひっ迫と言われるが、猛暑などの異常気象は頻度が高まっているし、インバウンドも、コロナ前に戻った部分が大いなのだから、想定外とは言い難い。

根本原因は別にある。過剰在庫を理由に、①生産者には生産調整強化を要請し、②水田を畑にしたら一時金を支給するとして田んぼ潰しを始め、③農家の赤字補填はせず、④小売・流通業界も低米価で買ったばかりから、米生産が減ってきているのが根底にある。

■ 国内酪農を疲弊させ、輸入で賄う愚

酪農も同じだ。過剰、過剰と言われたが、バターが足りないと言い始めた。昨年の猛暑による減産のせいだと言うが、根本原因は別にある。過剰在庫を理由に、①酪農家には減産を要請し、②乳牛を処分したら一時金を支給するとして乳牛減らしを始め、③酪農家の赤字補填はせず、④小売・加工業界も乳価引上げを渋ったため、廃業も増え、生乳生産が減ってきているのが根底にある。

しかも、酪農家を苦しめた失政のツケを、さらに輸入を増やすことで、いっそう酪農家を苦しめる形で対応するというのだから、あきれ。輸入を国産に置き換えて自給率を高めるべきときに、国産を減らさせて輸入で賄うという「逆行政策」が進んでいる。

■ 農家がどれだけ苦しんでいるか

どれだけ、稲作農家が苦しんでいるか。実際に、農水省公表の経営収支統計を確認すると、農家の疲弊の厳しさに驚く。2022年の段階で、稲作では、全体で、1年働いて手元に残るお金は1戸平均1万円で、自分の労働への対価は時給にすると10円にしかない。



表 稲作の経営収支(2022年)

区分	水田作 作付 延べ面積	農業 従事者数	労働時間	経営主の 平均年齢	農業経営収支		
		計	自営農業		粗収益 ⑦	経営費 ⑧	所得 ⑨=⑦-⑧
	(2)	(3)	(6)	(8)	(1)	(3)	(5)
	a	人	時間	歳	千円	千円	千円
水田作経営全体	278.8	3.76	1,003	69.8	3,783	3,773	10
個人経営	221.1	3.51	889	69.8	3,017	3,047	▲30
法人経営	3,315	17	6,914	67	44,053	42,007	2,046

資料: 農林水産省「農業経営統計調査」

個人経営だけの集計だと、所得はマイナス3万円と完全な持ち出しになっている。法人経営でも、平均33ヘクタールの経営で、200万円程度の所得しかない。これでは、誰かが残るところか総崩れである。

酪農・肉用牛経営も深刻な事態である。酪農経営では、平均で所得はマイナス、小規模層では、かろうじてプラスだが、もっとも酪農業界を牽引して規模拡大してきた平均330頭の大規模層では、赤字が平均で2,000万円を超えている。

肉用牛経営も同様で、平均で所得はマイナス、小規模層では、かろうじてプラスだが、もっとも業界を牽引して規模拡大してきた平均1,300頭の大規模層では、赤字が平均で3,000万円にもなっている。このように、もっとも酪農・肉牛経営を支えてきた大規模層が最も深刻な赤字にあえいでおり、コメも、酪農・畜産も、まさに、「総崩れ」の様相を呈している。



表 酪農経営、肉用牛経営の経営収支(2022年)

区分	営農類型 規模	農業 従事者数	労働時間	経営主の 平均年齢	農業経営収支		
		計	自営農業		粗収益	経営費	所得
	(2)	(3)	(6)	(8)	(1)	(3)	(5)
	頭、羽	人	時間	歳	千円	千円	千円
酪農経営	70.9	5.11	8,087	58.0	93,789	94,277	▲488
50頭未満	28.9	3.36	4,707	62.1	34,604	33,953	651
50～100	66.2	5.09	7,717	55.1	86,358	82,166	4,192
100～200	126.3	7.40	12,320	51.6	181,635	186,552	▲4,917
200頭以上	334.8	15.36	30,014	50.6	442,843	463,511	▲20,668
肉用牛経営	67.6	3.92	4,245	65.2	43,767	44,150	▲383
200頭未満	32.4	3.55	3,520	65.6	21,356	21,232	124
200～500	282.5	7.33	10,852	57.2	213,585	211,471	2,114
500頭以上	1,299.4	13.51	25,276	59.7	757,660	787,432	▲29,772

資料: 農林水産省「農業経営統計調査」

■ 果ては有事立法

さらに、政策は十分であり、一部の経営だけでも生き残ればよい、として、この深刻な総崩れの事態を放置して、支援策は出さずに、有事には、強制増産させて命令に従わなければ罰則を設ければいい、という政策を進めようとしていることの愚かさ、怖さを今こそ認識する必要がある。